

# 東京外語大 文科系の博士課程新設

## 素養豊かな「国際人」育成

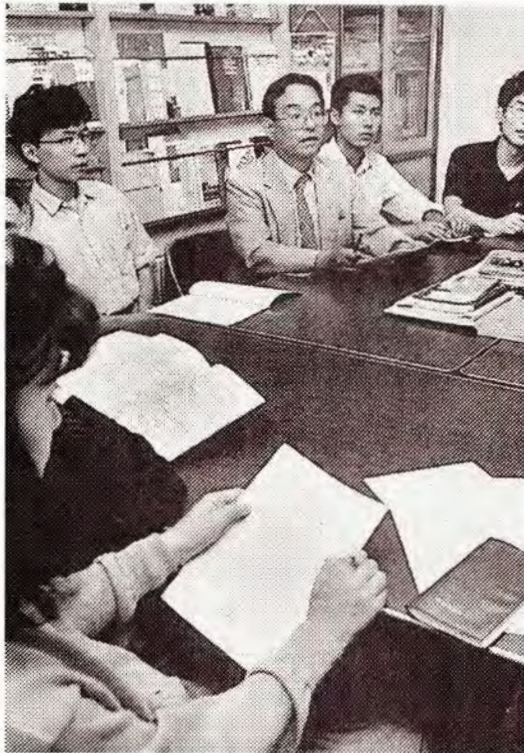
### 外国文化、幅広く学習

外国語の専門大学として知られる東京外国語大学（原卓也学長）が来年度に、国立大学では数少ない文科系の大学院博士課程を新設する方針を打ち出した。従来の修士課程を改組。語学だけでなく外国文化、歴史、国民性などを幅広く学んでもらうことで、「象牙（ぞうげ）の塔」に閉じこもらない新タイプの博士像を目指す。社会人の参加も積極的に進める。修了しても就職が難しいことなどのため、国立大の文科系博士課程は少ないが、最近の国際化もあって広い知識を身につけた「博士」の必要性は高まるとみている。

### 社会人の参加も推進

新博士課程は前期二年、後期三年。現在「外国語学研究所」と「地域研究研究所」の二コースある修士課程を改組するもので、前期が従来の修士課程に当たる。前期はヨーロッパ第一、アジア第一など七専攻に分かれ言語学研究などが授業科目。改組に当たってスワヒリなど少数言語もカリキュラムに加える。各専攻とも言語のほか地域の文化、歴史、国民性などを幅広く学ぶ体制にする。語学は地域研究の基礎であるとして外国人講師（ネイティブスピーカー）による表現実習を必修にする。今回新設を計画している後期は、院生の語学能力の向上はもとより、その国の政治、経済、社会、宗教などをさらに深く研究していく。文化人類学、歴史人類学などの共通科目のほか、

文部省などによると、外語大の博士課程新設が認められれば、国立大文系としては昭和五十六年の奈良女子大の「人間文化研究所」以来、十一年ぶり。他の国立大の中にも、専門で固まった従来タイプの学者ではなく、高度の専門性に加え幅広い素養を身につけた柔軟な人材養成のため、文科系の博士課程新設に意欲をみせる向きがあり、新設が決まれば各方面に大きなインパクトを与えそう。



大学院に博士課程ができる東京外国語大学のゼミ（東京外国語大の中嶋雄雄研究室）

語学理論演習などがある。こうした体制により「欧米、アジアだけでなくアフリカ、オセアニア、中東なども対象にした研究をしていく」としている。

### 調査 トクチョー

取得単位数は前期は三十単位前後だが、後期は八単位程度にする。従来の博士課程は二十単位数程度となっており、大幅な負担減になる。同時に、従来のような教室での研究重視一本やりではなく、外国に行ったり、フィールドに出たりした研究も学位授与の対象にしていく。

## 国立大文系で11年ぶり

### 国際化背景に新設の動き

大学前後、医、理学部系などともかなりの大学が博士課程を持つており、理科・文科系の差は歴然としている。「一貫して技術立国を目指してきた（文部省）ことがこうした差を生んだ。しかし国際化などを背景に、博士号が重視されてきた理系の

大学前後、医、理学部系などともかなりの大学が博士課程を持つており、理科・文科系の差は歴然としている。「一貫して技術立国を目指してきた（文部省）ことがこうした差を生んだ。しかし国際化などを背景に、博士号が重視されてきた理系の

マグマ供給  
なお活発

雲仙・普賢岳

長崎県雲仙・普賢岳は二十一日午前、北東側斜面にせり出した新しい溶岩ドームが崩落や火砕流を繰り返し、依然地下からの活発なマグマの供給が続いて度々企業からの派遣など社会人向けにしたいとしている。

### 芝信用品庫

みではなく、文系についても「高度な能力と豊かな学識を持つ人材養成が必要」との声が強まってきた。文部省の大学審議会も五月の答申で「人文・社会・自然はバランスよく発展すべき」

修了しても就職できない「オールドクォーター」などの問題は、残るものの、関係者の間には、博士課程への期待が高まっていくようだ。

全国九十七の国立大のうち現在、文科系の大学院博士課程を持つていないのは東大、一橋大など十三大学しかない。理系の場合は、例えば工学系なら三十